

図書館便り

ブーゲンハーゲン

Bugenhagen

2019年度冬号

ルーテル学院大学図書館

2020. 1. 10 発行

ブーゲンハーゲン

*Bugenhagen というタイトルは？ ルターの協力者で、宗教改革を推進した人物から名付けました。

創刊 10 周年

アクティブラーニングスペース +

プラス

新元号になって早くも半年以上経ちました。その間にアクティブラーニングスペースには新しいモノ・コトが増えたのですが、ご存知ですか？（鳥居）

+ Windows 10



館内の主な PC を Windows10 に入れ替えました。アクティブラーニングスペースの据置 PC 4 台と館内貸出ノート PC も新しくなりました。今後もレポート・論文作成などにご活用ください♪

統計ソフト SPSS の使用できるパソコンは台数が限られますので、譲り合って利用しましょう。利用が終わりましたら速やかにご返却ください。

※詳しくは、図書館ウェブサイトのお知らせをご覧ください。

+ 修学アドバイザー

図書館でも修学アドバイザーへの学習相談ができるようになりました！

1月の図書館での活動は14日(火) 16:30~18:00、15日(水) 15:00~18:00です。ぜひ一度足を運んでみてください！

★修学アドバイザーってなに？

修学アドバイザー制度とは、学部生が学習について相談できる制度です。昨年の10月に開始され、教務委員会を主体に、学生支援センターと図書館が連携してアドバイザーの活動をサポートしています。

★どんな相談ができるの？

修学アドバイザーには、レポートの書き方や、学習方針の立て方などを相談できます。資料の探し方、データベースの使い方などは従来通り図書館員へご質問ください。「どちらに質問したらいいの？」「こんなことで相談していいのかな？」と迷う場合は、まず図書館員へどうぞ。必要な場合は修学アドバイザーをご紹介します。

★場所と時間は？

図書館では、アクティブラーニングスペースで活動し、トリニティホールラウンジでも活動しています。週に1回~2回、夕方に活動しています。

活動日程は学内掲示や図書館ウェブサイトでお知らせしています。また、図書館のTwitterからも当日の活動予定を発信しています。

⇒ @Luther_Lib

相談例



Aさん

授業内容をもっと理解したいのですが…

授業のレジメをもとに何が分かっていないのかを一緒に考え、分かりやすい参考書を図書館で探しました。

一人で悩まないで！！

相談内容がはっきりしていなくても大丈夫！



裏に続く

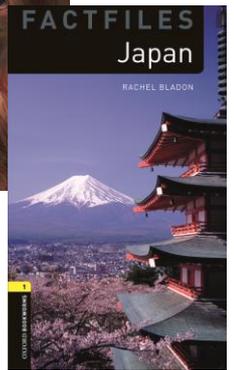
たどく
+ 英語多読リーダー

英語を習得するためにたくさんの文章を読む「多読」が効果的な学習方法として注目されています。その多読向けの本として有名な『Oxford Bookworms Library』シリーズが入りました。

中でもノンフィクションを扱った新ジャンル「Factfiles」は現代社会や環境問題のほかにノーベル平和賞を受賞したマラ・ユスフザイや陸上選手のウサイン・ボルトなどの話がカラーイラストで読みやすい英文なのでお勧めです。どうぞ手に取ってみてください。

※他にも「Crime & Mystery」「Fantasy & Horror」など豊富なジャンルがあります。こちらはアクティブラーニングスペースではなく、書庫2階にあります。Stage1~6までのレベルがありますので、自分の好み・レベルにあった本を探して読んでみてください。

☆アクティブラーニングスペースのこの棚にあります。



*表紙はシリーズ名 : Oxford Bookworms Library
『Animals in Danger』(Andy Hopkins and Joe Potter 2008)
『Japan』(Rachel Bladon 2013) Oxford University Press

今回担当の秋山さんは、通学電車の中で読書するのが日課とのこと。その路線は私も馴染みがあるのですが、日中はガランとして確実に座れるし、駅と駅の間隔も遠く、長いトンネルを抜けながら、ガタンガタン…と規則的な走行音だけが響く車内。きっと本の中の異世界へ入り、思いを巡らせるいい時間なのでしょうね。(矢野)



『タダイマトビラ』
村田沙耶香著
新潮社 2012
(請求記号 913.6 : Mu593)

連載・とサポ文学館

第八回 『タダイマトビラ』村田沙耶香 著

～図書館サポーター（とサポ）による、文学にまつわるリレーエッセイ～

私がこの本と出会ったのは高校生の頃でした。何故手に取ったのかも、何処で読んだのかも、もう忘れてしまいました。しかし、読み終えた時の衝撃は今でもよく覚えています。その衝撃は、自分の抱いていた「家族」に対する固定的な見方を改めるきっかけと、新たな観念を与えてくれました。

固定観念と現実との間には、ズレが生じることがあります。私たちはそのズレによって、葛藤や不満を抱くことがあります。この小説の主人公は、そんなズレから本当の家族とは何かを熟考する少女です。

「人間だとか家族だとかという言葉って、ずっと後から生まれたものでしょ。私たち、それ以前の世界に帰るんです。」

言語化することは時に私たちを不自由にさせてしまうと思います。なぜなら、曖昧で複雑な観念を一つの単語に閉じ込めてしまうからです。しかし、「家族」という言葉を失ってしまったら、私たちはどのようにしてその観念を伝えたり捉えたりすれば良いのでしょうか。

「それは、まっさらな白い世界に続くトビラだった。脳でできた建築物たちがすべて無に帰った世界が外で待っているのだった。」

この本から、私は家族に対する固定観念の存在に気づき、様々な家族像があって良いという安心感をえました。トビラの向こう側には、どのような世界が広がっているのか——一度覗いてみたいですね。(臨床心理コース2年 秋山朋美)

創刊10周年 Bugenhagen 誕生秘話 最終回

一年間、小誌の発行を振り返ってきましたが、いかがでしたか？ “図書館に少しでも親しみをもってもらえるように” というコンセプトの下、時には先生方のライフヒストリーや学食の店長さんのインタビューなど、一見図書館を離れた記事も掲載してきました。最近では、「とサポ文学館」の執筆を担当する学生さんと記事の構想を練るのがとても楽しいです。これからもご愛読頂ければ幸いです。感想お待ちしております。(矢野)

編集後記：新年あけましておめでとうございます。今年度はブーゲンハーゲン10周年でもありました。本誌が始まったころ、私は大学生でした。講義やサークル、文化祭など、色々なことに参加しましたが、一番思い出深いのはやはり図書館です。私が通っていた大学図書館では個室スペースがあってそこで論文を書いたり、読書してついうたた寝したものです。今でも図書館は私にとって落ち着きやすい場所です。ブーゲンハーゲンではこれからも図書館情報を発信していきますので、今後ともよろしくお願いたします。(鳥居)

Bugenhagen No. 45

2020年1月10日発行

編集・発行 ルーテル学院大学図書館

〒181-0015 三鷹市大沢 3-10-20

TEL/FAX 0422-31-4814

Twitter 公式アカウント : @Luther_Lib

図書館ウェブサイト URL : <http://www.luther.ac.jp/library/>